

## 一宮研伸大学紀要執筆要項

### (体裁)

第1条 原稿は原則として、現代仮名遣い・常用漢字による和文とする。

第2条 A4版横書きとし、ワードプロセッサで作成する。別添のフォーマットに従って、22字×40行×2段とし、余白を上下24mm程度、左右19mm程度とる。フォントは、タイトルを16ポイント、要旨・キーワードを10ポイント、本文を10.5ポイントとし、和文箇所にはMS明朝を、英文箇所にはTimes New Romanを用いる。

第3条 本文の読点には「、」句点には「。」を用いる。ただし文献リストの文献表記には、原則として「,」と「.」を用いる。原稿中の英数字はすべて半角文字とする。

第4条 専門的な略語を使用する際には、初出時に正式名を書き、それに続いて略語を（ ）内に示す。

### (構成)

第5条 表紙の所定の位置に、別添のフォーマットに従って以下の事項を記載する。

A 原書、教育実践研究、その他（招待論文）の場合

論文の種類（原著、教育実践研究）、タイトル（和文・英文）、著者の氏名（和文・英文）と所属（和文）、要旨（和文400字程度・英文250語程度）、キーワード（和文・英文）

B 総説、教育実践報告の場合

論文の種類（総説、教育実践報告）、タイトル（和文・英文）、著者の氏名（和文・英文）と所属（和文）、要旨（和文400字程度）、キーワード（和文）

C その他（提言、委員会報告、重要な情報の共有等）の場合

論文の種類（提言、委員会報告、重要な情報の共有等）、タイトル（和文）、著者の氏名（和文）と所属（和文）

第6条 原著、教育実践研究はIMRAD（Introduction, Method, Results, and Discussion）に従い、Ⅰ 背景、Ⅱ 方法、Ⅲ 結果、Ⅳ 考察等の見出しをつけて記述する。

第7条 見出しは太字（Bold）とし、Ⅰ 1. 1) (1)の階層順でナンバリングする。

第8条 原稿はそのまま電子製本するため、図表等を含め、レイアウトを適切に整える。ただし頁番号は編集委員会が割り振るため不要である。

### (提出)

第9条 原稿は、原本と査読用を以下のとおり用意して提出する。

A 原本

PDF ファイルを1部、編集委員会が示すGoogle formで提出する。

B 査読用

著者の氏名と所属、倫理審査の承認番号等、投稿者を特定できる情報を伏字にして

印刷したものを2部、事務局の紀要担当者に提出する。

#### (文献表記の方法)

第10条 論文の最後に文献リストを付ける。文献は和書・洋書を一括して出版年順に並べ、文献毎に改行し、一文献が複数行にまたがる場合には2行目以降を全角2字下げにする。

#### A 和書の場合

原則として「,」「.」「:」は全角文字とし、前後にスペースを空ける必要はない。著者等が複数いる場合には「,」で区切り、欧米人名が含まれる場合にはカタカナで名・姓の順に記し、間に中グロ「・」を打つ。書名、雑誌名は『 』に、論文名等は「 」に入れて記し、本題と副題との間は「—— (2倍ダッシュ)」で区切る。文献の種類によって以下のとおり記載する。

##### (1) 雑誌論文

著者, 出版年, 「論文名」, 『雑誌名』 巻号: ページ (電子版の場合は、URL, 取得日).

例 曾我洋子, 1984, 「STAI について」, 『看護研究』 17 巻 2 号: 107-110.

##### (2) 論文集の一論文

著者, 出版年, 「論文名」, 編者, 『書名』, 出版地: 出版社, ページ.

例 横山千晶, 2003, 「脚/足の復権——ヴィクトリア朝の歩行文化」, 武藤浩史, 樽沼範久編, 『運動+ (反) 成長——身体医文化論Ⅱ』, 東京: 慶応義塾大学出版会, 242-267.

##### (3) 単行本

著者 (または編者), 出版年, 『書名』, 出版地: 出版社 (電子ブックの場合は、版名, 取得日).

例 鈴木正子, 1996, 『看護することの哲学』, 東京: 医学書院.

##### (4) 訳書

原著者, 出版年, 『書名』, 翻訳者, 出版地: 出版社 (電子ブックの場合は、版名, 取得日).

例 トマ・ピケティ, 2014, 『21 世紀の資本』, 山形浩生, 森岡桜, 森本正史訳, 東京: みすず書房 (Maruzen eBook Library 版, 2019 年 7 月 29 日取得).

##### (5) 事典項目 (冊子体)

著者 (不明の場合は著者不明), 出版年, 「項目名」, 『事典名』 巻, ページ.

例 ウィントン・ディーン, 1994, 「批評」, 『ニューグローヴ世界音楽大事典』 14 巻, 202-212.

##### (6) 事典項目 (オンライン)

著者 (不明の場合は著者不明), 最終アップデート年, 「項目名」, 『事典名』 (URL, 取得日).

例 吉田精一, 2006, 「与謝野晶子」, 『ブリタニカ・オンライン・ジャパン』

(<https://www.britannica.co.jp/online/bolj/>, 2019 年 7 月 30 日取得).

(7) 新聞記事

著者 (記名記事でない場合は社名), 出版年, 「記事名」, 『新聞名』, 発行日, 版や巻, ページ (電子版の場合は、データベース名, URL, 取得日).

例 鶴光太郎, 2019, 「働き方改革と生産性向上 従業員の理解、業績に直結 (経済教室)」, 『日本経済新聞』, 2019 年 7 月 5 日, 日刊, 25.

(6) ウェブ上の文書

著者 (または発行者), 公表年または最終アップデート年, 「文書名」, 必要に応じて文書作成日 (URL, 取得日).

例 衆議院, 2017, 「第 193 回国会 衆議院 憲法審査会会議録 第 7 号会議録」, 2017 年 6 月 1 日 (<http://kokkai.ndl.go.jp>, 2019 年 7 月 30 日取得).

B 洋書の場合

原則として「,」「.」「:」は半角文字とし、直後に半角スペースを空ける (ただしこれらの記号が直後に連続する場合にはスペースは不要である)。著者等は名 姓の順に記して間に半角スペースをとり、著者等が複数いる場合には「,」で区切る。書名、雑誌名はイタリック体 (斜体) で、論文名等は “ ” に入れて記し、本題と副題との間は「:」で区切る。記載項目は和書に倣い、文献の種類によって以下のとおり記載する。

(1) 雑誌論文

例 Stephen C. Hedger, Shannon L. M. Heald, Howard C. Nubaum, 2013, “Absolute Pitch May Not Be So Absolute”, *Psychological Science* 24, no. 8: 1496-1502 (JSTOR, <https://www.jstor.org>, retrieved July 16, 2019).

(2) 論文集の一論文

例 Noburu Notomi, 2004, “Ethical Examination in Context: The Criticism of Crtias in Plato’ s Charmides”, Maurizio Migliori, Linda M. Napolitano Valditara eds., *Plato Ethicus: Philosophy is Life*, Sankt Augustin: Academia Verlag, 245-254.

(3) 単行本

例 Kane Robert, 1996, *The Significance of Free Will*, New York: Oxford University Press.

(4) 事典項目

例 Ellen Rosand, Beth L. Glixon, 2002, “Strozzi, Barbara [Valle, Barbara]”, *Grove Music Online* (Oxford Mucic Online, <https://www.oxfordmusiconline.com>, retrieved July 30, 2019).

(5) 新聞記事



例 Melissa Eddy, 2013, “East German Model City Rusts, Quarter-Century After Berlin Wall’s Fall”, New York Times, Nov 4, 2013, A6  
(ProQuest Historical Newspapers, <https://www.proquest.com/products-services/pq-hist-news.html>, retrieved August 1, 2019).

(6) ウェブ上の文書

例 Wakayama Tourism Federation, n. d. “World Heritage: The Kumano Kodo Pilgrimage Routes” (The Official Wakayama Travel Guide, <https://en.visitwakayama.jp/themes/world-heritage-the-kumano-kodo-pilgrimage-routes>, retrieved August 9, 2019).

第11条 文献を本文中に示す場合には括弧で括り、(著者 出版年: ページ) の形式で記す。和書、洋書いずれであっても「:」は半角文字とし、直後に半角スペースを取る。また文中に著者名が現れる場合には、それを省略することができる。

例 和書 (著者1名)	(佐藤 2017: 233-235)
和書 (著者2名)	(佐藤・山本 2001: 12)
和書 (著者3名以上)	(佐藤他 2003: 23)
洋書 (著者1名)	(Breig 2001: 23-44)
洋書 (著者2名)	(Breig and Wolf 2002: 34)
洋書 (著者3名以上)	(Breig et al. 2003: 454)
著者の省略	これを佐藤は詳細に再検討した (2017: 233-235)。

附 則

この要項は、令和3年7月21日から施行する。